

# 筑豊・京築地域公共交通活性化・再生総合事業

事業期間  
21～23年度

『ノーマイカーデーの推進、飲酒運転撲滅キャンペーンの実施』、『沿線自治体の観光情報発信』、『土日祝日フリー切符の導入』、『廃車旧車両活用事業の実施』を行い、鉄道利用者の利便性の向上、マイルール意識の醸成を図り、ひいては、平成筑豊鉄道の利用客数の増加を図ることを目的とする。

## 【筑豊・京築地域公共交通活性化協議会】

行橋市、小竹町、福智町、糸田町、田川市、香春町、赤村、みやこ町、直方市、直方商工会議所、田川商工会議所、行橋商工会議所、平成筑豊鉄道名誉駅長会、平成筑豊鉄道を育てる会、ちくまる友の会、田川温泉協議会、平成筑豊鉄道(株)  
オブザーバー:九州運輸局、福岡運輸支局、福岡県

## 事業の概要(22年度)

### ① ノーマイカーデーの推進、 飲酒運転撲滅キャンペーンの実施



社会運動の実証を行うとともに、趣旨賛同者へインセンティブを配布し、鉄道利用者の増加を図る。



### ② 沿線自治体の 観光情報発信

沿線イベントカレンダーの発行、新聞折込



### ③ 土日祝日フリー切符の導入

フリー切符の導入と合わせて、沿線の商店等が「ちくまる友の会」に加盟。商店等での割引サービス等との相乗効果を図る。

### ④ 廃車旧車両活用事業

廃車車両を展示スペースとして活用。駅の賑わいを創出し、鉄道の利用促進を図る。



## 22年度 導入への プロセス

自治体、地域の交通事業者、地元まちづくり団体や地元観光協会などを含む協議会において、計画事業の策定・進め方、事業の実施結果や自己評価報告案、次年度実施事業の計画等を報告・審議した。

鉄道沿線の商店等に協力依頼し、賛同者を「ちくまる加盟店」として登録し、商店等での割引サービス等との相乗効果をはかることとした。

## 22年度 事業の 効果

### 利便性の向上

③自動車保有率の増加及び少子化の進行により、大幅な利用者増加が見込めないことから、現在利用が少ない沿線観光による鉄道利用を促進するため、土日祝日限定フリー切符を販売するもの。沿線商店等に協力してもらい、フリー切符所持者に商品やサービスの割引を行った。鉄道利用者の確保と地域の活性化に寄与する仕組みができた。

### マイルール意識の高揚

①ノーマイカーデーの推進、飲酒運転撲滅キャンペーンを実施し、公共交通機関利用促進を図るもの。趣旨賛同者には地元特産品等を贈呈し利用者増加を図るもの。

### 観光利用の促進

②イベントマップにより沿線自治体の観光情報を発信することで利便性が高まったものと考えている。イベントマップは定期的(年6回)に配布しており、今後も継続していくことで効果を高めていくが、効果測定が難しい。

④廃車車両内で展示や販売が行えるよう内装等を改装し、沿線の農産物や加工品の販売、沿線で活動している園芸家、画家、陶芸家等の作品展に活用した。駅への人の集まり、賑わいを創出した。

## 次年度 以降

実施事業の中で最も効果が得られているものは、観光情報発信事業と考える。イベントカレンダーでの情報発信により、近隣の地域情報が得られることから、今後も沿線自治体の協力を得ながら集客性が高い情報を掲載していく。

・廃車車両活用の広報充実させ、展示等で活用する人の確保、見に来る人の確保に取り組む必要がある。  
・土日祝日限定フリー切符の効果を最大限に引き出すためにさらなるPRを行っていく。